



内子座 藝於遊



ポリカーボネート板仮止め

令和8年9月5日、はるばる山形の地で加工されたポリカーボネート板の第一陣が内子まで運ばれ、内子座の壁へ仮の取り付けが行われました。

右の写真は7日に撮影したのですが、取り付けられた真鍮枠の中の納まり具合などを確かめるため、テープで仮止めをしながら壁に取り付けられていました。なお、こうした仮止めの作業は第一陣で収められたポリカーボネート板のみで行うそうで、板に何もついていない状態で取り付けられたこの写真は、レアなものになりそうです。

ポリカーボネート板取付準備

補強用ポリカーボネート板は、内子座の真壁づくりの壁の片面に納められ、その後、漆喰で仕上げられます。そのため、ポリカーボネート板の上に下地材を張っていく作業が行えるよう、ポリカ板にも工夫が施されます。その工夫とは？



まず、届いたポリカーボネート板（以下「ポリカ」）の片面にテープで木の板を貼り付けます（写真①）。両面テープをはいだ紙切れは、工事前の内子座の紙吹雪を思い出させます（笑。いや、笑っている場合ではない作業量!!）。ポリカに栈木のように取り付けられた板（写真②）に、今度はポリカにあけられている5cm角の穴に触れないよう、小さな木片を取り付けていきます。木片は接着剤で貼り付けた後、ビス止めされていきます（写真③）。この作業には、職人さんが作った“はめ込み式ポリカ木片取り付け機～（写真④）”という感じの道具が大活躍！ 穴の中心に自ずと木片がくるように準備されたその道具は、ビス止めの際に動かないよう木片を指でしっかりおさえる必要のあった職人さんの労力も“全然違い”というほど軽減されるそうで、発明に拍手喝采！ 写真⑤は取付準備の終わったポリカの様子です。

